

# 複数のセルフヘルプ・グループをたどり歩くことの意味

立教大学 福重清

## 1 目的

アディクション(嗜癖)の問題を抱えた当事者にとって、セルフヘルプ・グループに参加することは、その回復において重要な過程となっている。今日では治療の現場において、アルコール依存症者にはAA (Alcoholics Anonymous)が、薬物依存者にはNA (Narcotics Anonymous)が、ギャンブル依存者にはGA (Gamblers Anonymous)が、紹介されるということも少なくないようである。彼らは、「同じ悩み」を持つ者同士で集い、語り、そして回復を目指す。ところが、そうしたグループをよく見てみると、薬物依存であるのにNAに馴染めずにAAに参加することを選んだり、ギャンブル依存であるのにGAに馴染めず、他のグループに参加することを選んだりする人が、少なからずいることに気づく。彼らは、「同じ悩み」を抱えているはずのグループに「違和感」を覚え、より「馴染める」グループを求めて複数のグループをたどり歩く。ではなぜ、彼らは、「同じ悩み」を抱えているはずのグループに違和感を覚え、複数のグループをたどり歩くということをするのか。グループに馴染める、定着できる条件はとかなのか。本報告では、体験談を語るというこれらのグループの中心的活动を手がかりにこれを検討する。

## 2 方法

本報告では、当事者で、ある複数のグループのメンバーであるAさんに対して行ったインタビューのデータと彼が参加していたグループに対して行った参与観察調査の結果から検討を行う。

## 3 結果

ギャンブル依存者としてGAに通い始めたAさんは、GAで知り合った仲間を紹介された、感情・情緒的問題を抱えた人びとのグループであるEA (Emotions Anonymous)に通い始めたところ、GAでは感じられなかったような「馴染みやすさ」を感じたという。これを、GA、EAそれぞれの「共同体の物語」(Rappaport 1993)に注目して解釈すると、GAの共同体の物語は比較的ストーリーが明確で、Aさんの語りたいたいストーリーを許容する余地があまりなかったのに対して、EAのそれは曖昧で、その分、Aさんのストーリーを十分許容するものと考えられた。この共同体の物語の違いが、AさんにEAに対する「馴染みやすさ」を感じさせたのではないかと推察された。

## 4 結論

メンバーがあるグループに馴染めるか否かには、そのグループが有する共同体の物語が大きく影響する。共同体の物語がメンバーの語りたいたいストーリーに馴染みやすいものであったなら、グループにも馴染みやすく、それが語り難いものだった場合にはグループに違和感を覚えるようになる。

## 文献

Rappaport, J., 1993, Narratives Studies, Personal Stories, and Identity Transformation in the Mutual Help Context, *Journal of Applied Behavioral Science*, 29(2), 239-256.